

- 右上：白山中居神社 鳥居 [写真提供：郡上市]
- 右下：白山中居神社 拝殿と本殿（大正初期） [写真提供：上村修一氏]
- 左上：白山中居神社 拝殿と宮川橋 [写真提供：郡上市]
- 左下：白山中居神社 宮川橋（大正初期） [写真提供：上村修一氏]

白山信仰が盛んであったころ、美濃馬場・白山本地中宮長滝寺（現・長滝白山神社／長瀧寺）を出発した一般の参詣者たちは、桧峠を越え、石徹白の白山中居神社へ。体が頑強なものは、上在所の社家（御師）に道案内を頼み、更に銚子ヶ峰、三ヶ峰、別山を経て白山へと登りました。美濃馬場・白山本地中宮長滝寺から白山へ登る道を「美濃禅定道」といいます。

美濃禅定道は俗に「木山三里、笹山三里、はげ山三里」とか「九里八町雀の三おどり」といわれる長い大変な長距離であったことから、「白山中居神社は白山のうち」との考えにより、石徹白の白山中居神社へ参詣し、白山へ登ったこととし、引き返す参詣者もいたといっています。

白山への登拝者たちの信仰の場の一つであった白山中居神社。白山中居神社は、鳥居をくぐった後、宮川に架かる橋を渡り、拝殿・本殿等がある境内へ入ります。宮川に架かる橋は、現在はコンクリート製ですが、以前は、白山中居神社のご用材山から伐り出された丸木の橋が掛けられていました。